

旅客案内ディスプレイの設置

ダイヤ乱れ時など異常時におけるお客さまへの情報提供の充実を図るため、平成28年3月より「旅客案内ディスプレイ」を京阪線17駅で使用開始しました（平成28年8月1日現在18駅）。平成29年度中には京阪線全駅に設置する予定です。平常時は沿線観光案内やマナー啓発などに活用し、案内サービスの充実を図っていきます。



旅客案内ディスプレイ

Webサイトでの延着証明書の閲覧・印刷

お客さまの利便性向上のため、5分以上の列車遅延が発生した際、京阪電車Webサイトで延着証明書を掲載しています（平成28年4月より大津線を対象路線に追加）。これにより、延着証明書をWebサイトから閲覧・印刷できるようになりました（各駅で発行しているものとは異なります）。



Web延着証明書

業務用携帯電話の携行（乗務員）

乗務員（車掌およびワンマン列車担当運転士）が主に運行状況を確認するために携帯電話を携行しています。これは、当社線や当社線と接続する他社線で遅延や運休といった輸送障害などが発生した場合に、これまでの列車無線による連絡に加えて、最新の状況を乗務員に随時メールで配信することで、お客さまへの情報提供体制の強化を図るためのものです。



運行状況確認用携帯電話

AEDの設置

お客さまの救命率向上のため、主要駅にAED（自動体外式除細動器）を設置しています。

また、駅係員が研修会などで心肺蘇生術を体験したり、新入社員を中心に普通救命講習を受講しています。これまでに数件の心肺停止したお客さまの蘇生に貢献しました。



AED

普通救命講習

バリアフリー化の取り組み

車両のバリアフリー

車内に車いすスペースを順次設置しており、平成28年3月31日現在440両となっています。

また、非常時に乗務員と直接通話ができる非常通報器を416両に、出入口上部に列車種別や行先、停車駅、次駅で開くドアの方向案内などを表示する車内案内表示器を386両に設置しています。

平成26年3月より新たに導入した13000系新造車両とリニューアル工事を実施した6000系車両合計42両には、目の不自由なお客さまのために、乗降口扉の開閉を音でご案内するドアチャイムを新たに設置しています。

身体の不自由な方などのために設置している優先座席は、座席の枕カバーや座席背もたれ、カーテンやステツカー等で、表示や色分けすることによりそのゾーンを明確にしています。



車いすスペースと優先座席



非常通報器



車内案内表示器

駅のバリアフリー

国および地方自治体と協力し、エレベーターをはじめとしたバリアフリー化設備を順次整備しています。

平成27年度は、深草駅にエレベーターや多機能トイレを整備しました。平成28年4月1日現在、一日の平均的な乗降人員3,000人以上の64駅のうち、61駅のバリアフリー化（段差解消）が完了しています。



深草駅エレベーター



深草駅多機能トイレ